別紙１

法人名　ＮＰＯ法人あさかプレーパークの会

事　業　計　画　書

事業名	乳幼児向けプレーパーク「トカイナカ」事業
種類	（1）SDGs 推進事業（　人間　豊かさ　地球　平和　ﾊﾟｰﾄﾅｰｼｯﾌﾟ　） （2）自立促進事業（　人間　豊かさ　地球　平和　ﾊﾟｰﾄﾅｰｼｯﾌﾟ　）
1. 事業の目的	①　活動の目的・これまでの活動 子どもが、制約なしに思い切り遊ぶ経験を積み重ね、子どもらしく時間をかけて成長できる場を提供するべく、プレーパークを実施してきた。 具体的には月に 1 週間、続けて通える「あさかの森プレーパーク」（朝霞市委託事業）、夏の川遊び「黒目川プレーパーク」（助成金による自主事業）、乳幼児向けプレーパーク「トカイナカ」（自主事業）、移動式プレーパーク「プレーパークキャラバン」（朝霞市委託事業）を開催。年間 122 日間のプレーパークを実施（2021 年度実績） ②　活動の中で明らかになった課題 小学生向けのプレーパークで出会った親子が、親子一緒にもっと遊びたいと始めたのが「トカイナカ」で、今年で 8 年目になる。 活動場所の朝霞市は転出入の件数が多い上に、30～40 代の若年層の住民が多いのが特徴で、越してきたばかりの子育て世帯が目立つ状況。子育てを助け合う相手を見つけることが困難なのは活動を始めたころと変わっていない。他の人の育児を知る機会が少ない、親以外の大人と我が子がかかわる時間がほとんどない中での子育ては苦しいことのほうが多いのではないかと想像する。人に迷惑をかけないこと、失敗しないことが正しいという思い込みも、まだ強いように感じる。また、コロナ禍の影響で屋外の遊び場に対するニーズは大きくなっている。男性が子どもを遊びにつれてくることも増えていて、遊ばせることに不慣れなケースが多く見受けられる。 そのような状況の中、乳幼児向けプレーパークの実施は、子どもが十分な遊びを通じて成長していくだけでなく、親の側への子育て支援との意味でも成果が期待できる活動と考える。 さらにこの活動は、親子での参加者が我が子の入園、就学後にスタッフとなることで、担い手も獲得してきた。助け合いの連鎖を切らないためにも活動を継続させたい。 ③　課題に取り組むことの必要性・重要性 ・不慣れな土地で不慣れな子育てに追いつめられる親をなくすための、即時的な子育て支援の場は重要。 ・親同士がつながりを持って、それぞれの子どもを看合うことは、個々人の子育てを助けるだけでなく、その経験は別の場面でも支援し合うことにつながり、社会で子どもを育てる風潮を醸成することが期待できる。

2. 事業の内容	（1）　幼児向けプレーパーク ①趣旨 　幼児の興味・関心に「それはだめ。」と言わなくて済むよう、無用な危険は事前に避け、それぞれの子がチャレンジできるような遊び場を設営する。子ども達の「やってみたい、やりたい」気持ちにとことん付き合うことを旨とする。また、朝霞の森にある自然素材を遊びに取り入れ、ここだからできる遊び、家ではできない遊びを数多く紹介する。 用意する遊び、道具：どろんこ・水遊び・草花摘み・ビー玉転がし・シャボン玉・チョーク・乗り物（ストライダー、三輪車）・虫捕り道具・ままごと道具・ボールなど ②実施時期：7 月から 2 月の毎週金曜日（ただし祝日、第 5 週は休み）、10 時～14 時　※荒天の場合は中止 ③対象者：主に未就園児とその親、保護者、それ以外の子どもも。 ④場所：朝霞市大字膝折 2-34　朝霞の森 ただし、7 月 22 日は黒目川（朝霞市溝沼 482-5 付近） ⑤参加見込み人数：親子 25 組／回 ⑥外部の協力者：プレ―リーダー関戸博樹氏（特定非営利活動法人日本冒険遊び場づくり協会代表） （2）　季節に合わせた親子遊び 　「自由に遊ぶ」だけでは遊びの輪に入りづらい親子もいる。遊びに入るきっかけとなるよう、SNS での告知でも興味を引くよう、テーマを持った企画をプレーパークの中で毎月一回行う。参加者が増えることが見込まれるため、親子遊びの回はスタッフを増員する。 7 月 22 日：川遊び　（スタッフ３名） 8 月 12 日：ペットボトルシャワー　（スタッフ２名） 9 月 9 日：絵の具で手形足形　（スタッフ２名） 10 月 14 日：運動会　（スタッフ８名） 11 月 11 日：たき火で焼き芋　（スタッフ２名） 12 月 23 日：ピニャータ割り　（スタッフ２名） 1 月 13 日：凧揚げ遊び　（スタッフ２名） 2 月 3 日：豆まき　（スタッフ２名） ※天候によって変更の場合あり

<table>
<tr><td>3. 実施計画</td><td>（1）幼児向けプレーパーク
（2）季節に合わせた親子遊び
共に、2 か月ごとのスタッフミーティングで開催のための準備確認。それまでの開催のふり返り、問題があれば対処を検討。以降の活動の準備等確認、スタッフのシフト確定。

〇スケジュール
<table>
<tr><td>時期</td><td></td></tr>
<tr><td>7 月</td><td>開催：1 日・8 日・15 日・22 日
ミーティング、７～９月の告知チラシ配布</td></tr>
<tr><td>8 月</td><td>開催：5 日・12 日・26 日</td></tr>
<tr><td>9 月</td><td>開催：2 日・9 日・16 日
ミーティング</td></tr>
<tr><td>10 月</td><td>開催：7 日・14 日・21 日・28 日
10～12 月の告知チラシ配布</td></tr>
<tr><td>11 月</td><td>開催：4 日・11 日・18 日・25 日
ミーティング</td></tr>
<tr><td>12 月</td><td>開催：2 日・9 日・16 日・23 日</td></tr>
<tr><td>1 月</td><td>開催：6 日・13 日・20 日・27 日
ミーティング、１～２月の告知チラシ配布</td></tr>
<tr><td>2 月</td><td>開催：3 日・10 日・17 日・24 日
ヒアリング会開催、報告書作成</td></tr>
</table>
※□は季節に合わせた親子遊びの回

〇広報計画
7 月、10 月、1 月にそれ以降の開催予定をチラシにて告知。
SNS 上で、開催の数日前に情報発信。荒天による中止連絡も SNS で。</td></tr>
<tr><td>4. 実施体制</td><td>毎回の開催(通常)はプレ―リーダー1 名、スタッフ 1 名で実施。「親子遊び」実施の回はスタッフ 2 名。7 月川遊びはスタッフ 3 名。８月は熱中症の心配からスタッフ 2 名。10 月運動会はスタッフ 8 名。
①総括責任者：野上眞由美
②連絡責任者：野上眞由美
③現場責任者：関戸博樹
④経理担当者：杉本久美子
⑤広報担当者：立園紀子</td></tr>
<tr><td>5. 事業の効果</td><td>①子ども達にとって、プレーリーダーに見守られながら制約なしに遊び、満足するまで繰り返すことで、子ども達が達成感を得、自己肯定感を持って、自分の次の段階に進めること。

②親にとって、開放的な自然の中であること、自分の関心で遊ぶ子どもは親の手を離れて遊ぶようになること、かつては参加者だったスタッフの存在がピアサポートとなっていることなど、気持ちを休める要因がいくつもあり、子育ての負担が軽減される。自分自身も、他の親子と関わり、お互いの子を看あうことで、子育て支援の輪に入ることができる。</td></tr>
</table>

	③地域にとって、「トカイナカ」で生き生きと過ごす子ども達の姿を日常的に目にすることで、子どもや子育て世代を寛大に受け止める素地ができ、子どもを社会で育てることにつながっていく。 　小学生の時にプレーパークで遊び込んだ子が中学生、高校生になっても自分の居場所として訪れることが多い。同じように「トカイナカ」で時間を過ごした親は、子どもが大きくなってからもプレーパークに安心して子どもを送り出せるだろう。「トカイナカ」の活動を手掛かりに、プレーパークが地域のセイフティネットの一翼を担うことが期待できる。 ④ハンディキャップ、子どもの貧困など、専門的な知識を必要な、あるいは専門の部門につなぐことの必要な問題が見えることもある。専門部門と連携を図り、子育て支援のハブとしての役割を果たすことも、長期的ねらいとしたい。 2 月に、参加者の感想を聞き取る機会を持ち、上記の効果について達成度を確認。報告集を作成し、活動の改善、次年度の経費確保に活かす。